

1. 件名：ALPS 処理水の測定・評価対象核種の選定に関する面談
2. 日時：令和4年10月5日（水）16時00分～17時20分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
岩永企画調査官、正岡企画調査官、大辻管理官補佐、小西係長、塩唐松係長
澁谷企画調査官、吉田技術参与（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当4名

5. 要旨：

- ALPS 処理水の海洋放出関連設備の設置に係る実施計画の審査において東京電力が今後測定・評価の対象とする放射性核種を選定するという方針を示した点に関し、原子力規制庁が東京電力ホールディングス株式会社（以下、「東京電力」という。）に対して、これまでの面談を踏まえ、以下の事項について説明するよう伝えた。
 - 手順1について、「評価上存在する」と判断する基準
 - 手順2について、Rn 以外の希ガス5核種について、生成過程を含めてこのフローで除外する理由
 - 手順3について
 - ◇ 除外の基準を各核種の告示濃度限度の1/100としている根拠
 - ◇ 全量移行を仮定した保守的濃度を出すに当たって、海洋放出の対象となるタンクに貯蔵された水の全量で割るという趣旨から、インベントリ評価に合わせた2023年3月11日時点のタンク貯蔵水量の想定値で割ること
 - ◇ これまでの分析で上記の保守的濃度を超える結果がある核種があれば、個々の核種についてその理由
 - 手順5について
 - ◇ 除外の基準を各核種の告示濃度限度の1/100としている根拠
 - ◇ 除外される核種について、個別に、移行係数の設定根拠、設定の根拠として用いた分析データに関する情報（サンプリング日時・場所・手法、分析手法（特に前処理工程）等）
 - これまでに滞留水からALPS 処理水までの分析で分析値が出た核種について、選定外となった核種があれば、その理由
- 東京電力から、上記指摘について準備する旨回答があった。

6. 資料
なし